

日本語学習の動機づけを支えるオンラインの実践活動 —L2理想自己の観点から—

鈴木雅（南山大学）

1. はじめに

本プロジェクトのテーマは「動機づけ」です。第二言語習得における動機づけに関する研究は今日に至るまで非常に盛んに行われてきており、現在、数多くの理論や知見が存在しています。その一つに、近年、注目されているL2 Motivational Self System (L2MSS) (Dörnyei, 2009) があります。このL2MSSにおける自己概念に「L2理想自己」というものがありますが、これは目標言語にまつわる理想的な自己像のことです。L2MSSでは、この理想的な自己像（L2理想自己）と現在の自分との差をなくしたいという気持ちが第二言語学習の動機づけを強めると考えられています。多くの研究で「L2理想自己」が動機づけに良い影響を与えているということも示唆されています（今野, 2014; 大和・三上, 2012; Al-Shehri, 2009; Dörnyei & Chan, 2013）。そこで本プロジェクトでは、米国で日本語を学ぶ方を対象に「L2理想自己」の観点から、日本語学習の動機づけを支える実践活動に取り組みました。本稿では、その実践活動を報告するとともに、その成果と意義について参加者の声をもとに検討します。

2. 主な活動内容

実施した主な活動内容は以下の2点です。

- ① 米国の大学で日本語クラスをご担当になっている先生2名に対し、米国の日本語学習者の動機づけの傾向や先生方が動機づけに関して気をつけていることがあるかについて知るために、オンラインでインタビュー調査をする。
- ② 日本語学習における動機づけの面で役に立ちそうなオンラインイベントを行う。

以下では、これらの調査・実践を時系列順に報告します。

3. 先生2名へのインタビュー調査の実施

2022年8月17日（日本時間）に、米国東部でご活躍されているT先生に、その翌日、8月18日（日本時間）に、米国中西部でご活躍されているY先生に、いずれもWeb会議サービス（Zoom）を用いてインタビューを行いました。先生2名へのインタビュー調査は、倫理審査の承認（承認番号：22-045）を得た後、調査の概要を説明して同意を得た上で実施しました。インタビューの所要時間はおよそ1時間で、主な質問内容は以下の2点でした。

- Q1 学生がどのようなことを目指して日本語の勉強をしているかについて、どのような印象を持っているか。（L2理想自己に関わる内容）
- Q2 学生と接する中で、主に動機づけに関して、気をつけていることはあるか。

3-1 インタビューの成果

まず、Q1「学生がどのようなことを目指して日本語の勉強をしているかについて、どのような印象を持っているか」については、大きく分けて3つに関連することが分かりました。

一つ目は、アニメに関連するものです。例えば、「アニメを字幕なしで理解し、楽しめるようになりたい」「アニメを通じて、日本のマナーやしきたりを理解したい」「アニメで知ったことばと現実で使われることばの違いを理解したい」という学生が多いそうです。

二つ目は、日本に行ってみたい、日本で生活してみたいという、訪日に関するものです。例えば、「JET programで日本に行つて英語を教えたい」「日本に留学したい」「東京が見てみたい」「本場の寿司や照り焼きを食べたい」という気持ちを持った学生も多いとのことです。

三つ目は、日本語を使いたいという気持ちや異なる文化や言語を学びたいという気持ちに関わるものです。例えば、「日本語を使って日本語第一言語話者とコミュニケーションを取れるようになりたい」「日本語を使って自分のことを話せるようになりたい」「新しい文化や言語に触れてみたい」という思いを持った学生がいるそうです。

以上より、米国の学生は、アニメに関連することや、訪日に関すること、さらには日本語を使いたいという気持ちや異なる文化や言語を学びたいという気持ちに関わる「L2理想自己」を持っている傾向があることが示唆されました。

つづいて、Q2「学生と接する中で、主に動機づけに関して、気をつけていることはあるか」についてお聞きしたことを報告します。

T先生：

- ・日本語を教授するときは、教科書通りの「文法説明→練習」というワンパターンの単調な流れになってしまいやすい。それでは学生にとっても教師である自分にとってもつまらない。だから、学生が興味を持っているアニメやJ-POPなどを授業で取り扱ったり、それらを絡めた課題を出したりしている。
- ・教科書に示された通りのタスクを行うことよりも、学生の満足度を上げるタスクに取り組んでもらうようにする。例えば、教科書内のキャラクターについて話せるようになるタスクを、自分のことを話すタスクへと変更して取り組んでもらう。日本語での自己表現をする機会を増やすことで学習の達成感や満足度をより一層強く感じ、やる気も上がる。

Y先生：

- ・所属大学は日本語専攻がある大学ではないということもあって「楽しみ」を取り入れることを重要視している。例えば、グループで劇をする活動に取り組ませたり、俳句コンテストを開催したり、コマーシャル作りに挑戦させたりと、クリエイティブな活動を取り入れるようにしている。

- ・上級の学生は学習の難易度が上がり、できないことが増えると、動機減退する学生が多い。そうした学生のために、学生が興味を持ちそうな歌やドラマ、アニメ、漫画などから好きなものを自分で選んでもらうようにしている。
- ・このような活動は、例えば「日本語で劇をした!」「日本語の歌を歌った!」など、思い出としても残りやすく、達成感や満足感も味わえる。このように達成度や満足度を上げることで学習意欲（動機づけ）を高めるように気を配っている。

見えてきた共通点：

- ・学生の動機づけに配慮した活動作りを意識して行っている。
- ・学生の視点に立って、学生がどのようなもの楽しさを感じるのかを考えている。
- ・学生の動機づけを高めるために、学生の興味のあるものとして、日本のポップカルチャーを豊富に扱っている。

4. オンラインイベントの実施

本オンラインイベントは、2023年1月5日（米国中部標準時では8:00-9:00）（日本時間では23:00-24:00）に開催しました。題目は「Share your Ideal Self なりたいジブンについて話そう -Me and Japanese- —ジブンと日本語—」としました。ここでの「なりたいジブン」というのは、「L2理想自己」のことで、表現を変更したのは一般的に理解されやすくするためでした。また「ジブン」をカタカナ表記にしたのは、本プロジェクトにおいて「自分」という概念は人生を豊かにするための可能性に満ちあふれている概念であると見なしており、極めて重要で特別な意味を持つと考えたからです。

本オンラインイベントを開催する目的は、米国で日本語を学ぶ方々に日本語にまつわる「なりたいジブン」について考えてもらい、そしてそれを表現する機会を提供することと、そのような日本語を学ぶ方々の「なりたいジブン」について知れる機会を設けることでした。

オンラインイベント開催前には、事前に米国で日本語を学ぶ方々を対象に「なりたいジブン」の作品の募集をしました。募集は、倫理審査の承認（承認番号：22-045）を得た後に行いました。全部で7名の方々の後述の応募があり、すべての応募者から公開の同意を得ました。

イベントの広報は、自身のInstagramのアカウントを使用して24時間限定の投稿ができるストーリー機能を用いて発信したり、自身の知り合いに直接連絡したりしました。



図1 オンラインイベントの告知ポスター

4-1 オンラインイベント当日

参加者は、筆者を除いて13名で、日本語を学んでいる方々や、日本語を第一言語とする大学生・大学院生・社会人や、日本語教育に従事されている方々などでした。当日のタイムラインは以下の通りでした。

(下記、日本時間で記載)

23:00-23:05	はじめのことば
23:05-23:40	「なりたいジブン」の発表
23:40-23:55	交流会 (Breakout Room)
11:55-12:00	おわりのことば

なお、イベント内での使用言語は日本語・英語とし、自由なかたちで発表やコミュニケーションを取っていただく方針にしました。

4-1-1 「なりたいジブン」の発表

前述の通り、本プロジェクトでは、米国で日本語を学ぶ計7名の方々が日本語にまつわる「なりたいジブン」の作品を制作し共有してくれました。オンラインイベント当日での発表ではそのうち5名が発表してくれました。本稿では提出していただいた7点すべての作品を掲載します。

また、オンラインイベント内での各発表後には、オーディエンスから発表者へ向けた質疑応答およびコメントができる時間を設け、発表者とオーディエンスが双方向にやりとりできる場作りに努めました。



図2 作品1 (R1さん)

日本語を使ってお金持ちになったジブンを思い描くR1さん。作品には、大きな屋敷と、乗り切れないほどの数の車を所有しているジブンが描かれています。

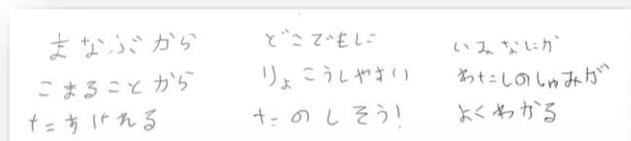


図3 作品2 (R2さん)

R2さんは俳句で日本語にまつわるなりたいジブンを表現してくれました。図3の左の俳句からは、何らかの困りごとを助けているジブンの姿が、真ん中の俳句からは、日本旅行を堪能しているジブンの姿が、そして右の俳句からは、言語を学ぶという趣味を楽しんでいるジブンの姿が垣間見られます。

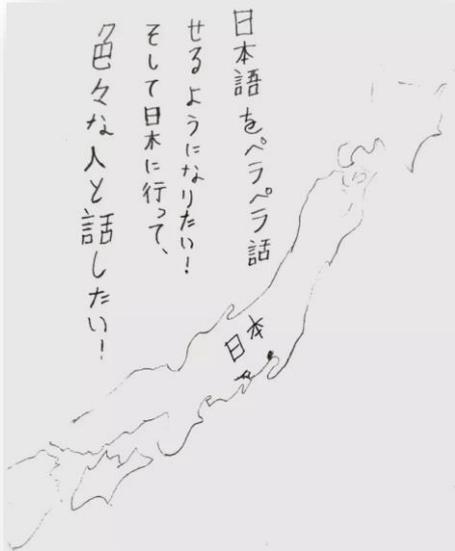


図4 作品3 (Gさん)

Gさんは、日本語をペラペラと話すジブンや来日していろいろな人と話を楽しんでいるジブンを思い描いています。作品には、大きく日本の地図が描かれ、訪れたい場としての日本というイメージが感じられます。



図5 作品4 (Mさん)

Mさんは、日本に住んで生活基盤を築いているジブンを想像しています。日本で生活する将来を真剣に熟考している様子が窺われます。



図6 作品5 (C1さん)

「日本語」と大きく書かれた文字の下には「日本語で異文化交流をしたい」というC1さんの気持ちが表現されています。自国の文化とは異なる日本の風景を堪能しているジブン、大阪にいる友だちとたこやきを食べているジブン、日本の車を運転しているジブンと、日本語にまつわる複数のジブンを具体的に思い描いています。



図7 作品6 (C2さん)

C2さんは日本の友だちにおいしい食べ物を作っているジブンを思い描いています。こちらのお弁当もご自身で作られたようで、お弁当を作る今のジブンと日本語にまつわる将来的な理想の姿である「なりたいジブン」との間につながりがあることが感じられます。



図8 作品7 (Jさん)

Jさんは動画で日本語にまつわる「なりたいジブン」を表現してくれました。動画では、日本でビデオゲームの会社で働きたいという気持ちがあると伝えてくれました。日本でビデオゲームの会社で活躍しているジブンを思い描いていると言えそうです。

オンラインイベント内における5名の発表の後、「発表を聴いていたみなさんの中で、なりたいジブンを話してみたい人はいますか？」とい

う問いかけをしたところ、米国で日本語を学ぶ一人の方が口頭で「なりたいジブン」を発表してくれました。

4-1-2 交流会 (Breakout Room)

交流会では、基本的には自由なかたちで交流していただくことを想定しておりましたが、ご自身の「理想自己」（必ずしも第二言語習得には限らない）を考えるきっかけとなれば良いと考え、以下の内容を含んだ会話トピックを提案した上で行いました。

【自己紹介をしましょう！】

例：名前、出身、今住んでいるところなど...

【話そう！】

★2022年はどんな年でしたか。

なにかがんばりましたか。

★今年はどうな年にしたいですか

なにかがんばりたいことはありますか。

★5年後、どんなジブンになっていたいですか。

4-2 オンラインイベント参加者の声

イベントの最後に、参加者に対して Google Forms を用いたアンケート調査への協力をお願いしました。全部で11名の回答がありました。以下、枠で示したものは実際のアンケートの各設問の質問文です。

■今日のイベントはどうでしたか。

How was the event today?

「良い(5)」～「わるい(1)」という5段階評価において、11名の回答のうち、9名は、5、2名は4としていました。この結果から、すべての回答者が一定の程度でイベントに対して満足してくれていたということが分かりました。

次に自由記述の感想を内容別に報告します。

■感想を教えてください。

Please share your thoughts about the event.

—L2 理想自己について

• It was really interesting to hear other people stories and motivation to learn Japanese. Hearing their

stories made me think once again about my ideal self and what i want to be in the future. It was a good experience, thank you so much for this wonderful event

- It was fun to see how other people wanted to use their Japanese or how they see themselves in the near future with Japanese.
- 皆さんのなりたい自分について詳しく聞けて面白かったです！
- それぞれ発表した人がどのような野望を持って日本語を学んでいるのかがよくわかりました！皆さんそれぞれ願いが叶うといいですね...！

—人との交流について

- It was fun talking to others and sharing my experience!
- とても素敵な発表がされて、日本文化に興味を持つ人をあえて嬉しい！
- It was fun to see so many kinds of answers from people with different life experiences.

—イベント形式や雰囲気について

- It was very orderly and clear what we had to do.
- また、人をしっかり巻き込んで楽しい雰囲気の中でイベントを楽しむことができました！
- あたたかい雰囲気の下で進行していて、心地よいひとときを過ごせました。やさしい日本語にも留意されていたと思います。
- 学生からも質問がでて、いい交流会ができたと思います。またこのようなイベントができるといいですね。
- このイベントはとても面白かったですよ。発表は良くできました。

■ **【任意/Optional】改善点を教えてください。**

Tell me what has to be done for the better.

- You should extend the presentation time a bit more and have more questions for breakout time
- More time to chat with each other.
- Q&A でもし出てくる人いなかったら指名する形にしてもいいかも

- ブレイクアウトルームで話して欲しい内容は事前にコピペできるように用意しておくとうさそう
- Maybe more time so that we could have more time to talk at the end.
- 最初にイベントの目的(交流？自己分析？日本語の勉強？)を明示しておく、参加者の意識をより高められると思いました。

4-3 まとめ | オンラインイベントを通して

本オンラインイベントは、初めての試みとしては非常に高い満足度が得られたと思います。とくに、他者の L2 理想自己を知ることによって、自身の L2 理想自己を考えるきっかけとなったという感想や、発表者の L2 理想自己を聴いて応援したいという気持ちになったという感想からは、本オンラインイベントの趣旨を十分に適えたものを作り上げることができたと言えます。

また、人との交流に関する感想も頂き、本イベントの開催によって日本語を介したつながりの場を提供することもできたと思われま。

これらの参加者の声をもとにした成果をふまえ、本オンラインイベントには、日本語に関連した「なりたいジブン（L2 理想自己）」を、一考えるきっかけとして一表現する場として一応援したり応援されたりする場として一、彼らの日本語学習の動機づけを支えることができる可能性があると言えるところです。

5. おわりに

本プロジェクトでは、L2MSS における「L2 理想自己」の観点から、日本語学習の動機づけを支える取り組みについて考え、実践しました。とくに、本研究プロジェクトで日本語を学ぶ方々の L2 理想自己（なりたいジブン）に触れることを通して、言語を学ぶということそのものが一人一人の人生を充実したものとへと変化させる力を秘めているものだと強く実感するようになりました。ここから、言語教育者はよりマクロな視点で彼らの人生と向き合っていく姿勢が求められると学びました。この学びは教育実践の場や研究の場など、第二言語習得に関わるい



かなる場で意識し活かされるべきことだと考えます。また今回、米国で日本語教師としてご活躍なさっている2名の先生方にもご協力をいただき、大変貴重なお話を伺うこともできました。今後は、僭越ながら自身も海外での日本語

教育に貢献できる人材となるべく本プログラムでの実践を通じて得た動機づけに関する理解や知見、見解を活かして、研究活動により一層励み、精進して参りたいと思います。

参考文献

- (1) 今野勝幸（2014）「日本人EFL学習者のL2自己と英語学習の関係性」静岡理工科大学紀要, 22, 71-77.
- (2) 大和隆介・三上由香（2012）「日本人英語学習者の動機づけに関する調査と考察—L2 動機づけ自己システムの観点から」京都産業大学教職研究紀要,7,1-20.
- (3) Al-Shehri, A. H. (2009). Motivation and vision: The relation between the ideal L2 self, imagination and visual style. In Z. Dörnyei & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self* (pp. 164–171). Bristol, UK: Multilingual Matters.
- (4) Dörnyei, Z. (2009). The L2 motivational self system. In Z. Dörnyei & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self* (pp. 9–42). Bristol, UK: Multilingual Matters.
- (5) Dörnyei, Z., & Chan, L. (2013). Motivation and vision: An analysis of future L2 self images, sensory styles, and imagery capacity across two target languages. *Language Learning*, 63(3), 437-462.